

嘉右エ門 + 福松

幸福コンビの「苦労したこっつお」なはなし 訪問メンバー(谷香織・川端光昭・星野伸一)

◆雪の話

- ・屋根の雪ほり=今はスノーダンプや角スコだが、昔はコシキとケンスコだった。コシキは軽くて雪を遠くまで投げることができるが、そんなに簡単じゃない。
- ・冬の間、男衆が出稼ぎに出ていたから、除雪は女衆と年寄がやるしかなかった。(ある意味、現在と状況が似ていたと考えても良い)
- ・牛ヶ首までかんじきで道踏みしたこっつお！(メマイがする程、遠い、、、)



◆戦争の話

- ・20歳になった2年間徴兵義務があり、村に来たばかりの奥さんが一人で、そりゃ～寂しかったこっつお～。
- ・30歳のとき赤紙が来て大東亜戦争に招集され、終戦直前まで北方領土のウルップ島に居た。ウルップ(得撫)島=名前の由来はアイヌ語で「ニジマス」を意味する「ウルプ」から。千島列島の中央に位置し、択捉島から北東に40キロ。亜寒帯に属する。(ウイキペディアより)

◆青春時代の話

- ・盆踊りぐらいしか女性と話す機会がなかった。だから？のぞき、夜這いがはやった(ヤバイ、、、)？こっつお？？



幸福コンビ



星野福太郎さん(大正7年9月30日生・92歳 嘉右エ門4代目)

「ねら、木沢に遊びに来るのもいいが、嫁に來いや！」と笑わすが、その言葉には長老としての重みを感じる。

星野幸一さん(昭和11年生・74歳) 福松？代目・たばこ歴50年

「幻の石」ばあさんに残す(?) 冗談とホントのいりまざった話は絶妙。



◆感想(谷 香織)

「幸福コンビ」のお二人の若い頃のお話は、とても大変なことが沢山あったけれど、聞いていてとても愉快で楽しまれて来たんだなと思いました。

◆感想(川端光昭)

冬の出稼ぎや徴兵義務で家を守る奥さんのご苦労がよくわかった。女性の力も非常に重要だと思った。



星野菊代さん

㊦ 谷 香織(大阪大学)

♪ご存じ木沢のアイドル！実は才女。今春FS名誉村民に！

㊦ 川端光昭(長岡技術科学大学院生)

今セミナーのリーダー的存在。何れは大学教授？！

富蔵分家

ずっと木沢で

訪問メンバー（小嶋かおり・小林勇二）

◆昔のこと

①遊び

- ・男の子はコマ回し、風ぐるま
- ・女の子はお手玉、子守り
- ・お寺が遊び場
(昔はもっと上にあつたらしい)

②行事

- ・地蔵様参り・・・みんなでお参り
- ・十二講
豊作祈願の為に杉の枝で「弓」をヨシで「矢」をつくり、お参りしてから射った。

③その他

- ・養蚕
短期間での現金収入になり、子供も桑取りなど手伝いをした。
蚕はボコサマと呼ばれて家の中で飼育され、ある意味人間より偉かった。



昔の村は子供の声であふれていたんだが、と寂しそうに語る。



間野慶作さん セキさん
(昭和4年生・81歳・富蔵分家2代目)
海軍に9ヶ月(船の整備)

◆木沢のこと

- ・生まれた時から木沢
なかなか良さが分からねえのお～。
- ・先祖からの土地は守らんとのお。
- ・四季を通していい景色が見られるのは木沢のいいところだ。
- ・通りすがりの人と気さくに話したり、お茶飲んだり、ひとがいいんだな～。
- ・雪解けの後の春が楽しみだな。

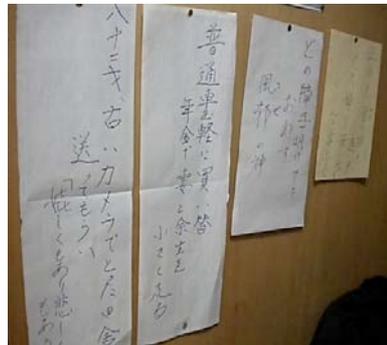
間野⇒岩間木が本家



どの障子も
明けてお
わす

風邪の
神

慶
作



① 慶作さんは一週間に一つ歌を詠んでいる
(木沢のこと、生活のこと)

◆間野家のこと

- ・昭和32年から行事を記録している。
- ・昭和56年・・・17回雪おろし
- ・昭和57年・・・現在の家に引っ越し
- ・歳と共に考え方が変化。
居られるうちは木沢に居たいが、世話をかけたくない。

◆感じたこと(小嶋かおり)

- ・冬だけではなく、木沢の様々な景色が見たい。
- ・もっと行事が増えればいいなと思う。

小嶋かおり(新潟工科大学)
♪まっすぐな瞳(め)が印象的な女性、
発表の上手さが一際光った。

峰 蔵

THE 峰 蔵

訪問メンバー(杵渕一成・星野総一郎)

◆峰蔵・・・呼びやすいように転訛(なまって)して「ウネゾウ」。本当は「ミネゾウ」。



仲良く
手を打つ



星野春吉さん(昭和5年生・80歳)
・昭和16年、小千谷のリケンに入社。
その当時の日当65銭

和子さん(昭和13年生)
小千谷市・千谷出身(千田中)
木沢に来て45年

◆昔の小学校の様子

- ・着物の子が殆どで洋服の子はいなかった。
- ・皆、裸足。5,6年生からもんぺをはいた。
- ・当時は小学校を卒業するとほとんどが就職で、高等科に行くのは数人程度だった。

◆子供の頃の遊び(冬)

- ・かるた・碁・ぼぼずいな(そりの替り)

◆昔の食べ物

- ・魚は貴重だったから正月ぐらいしか食わなかった。(ロウソクホッケを箱単位で買って塩漬けなどにした)
- ・ぞうせ(雑炊)はよく食った。

◆木沢の昔話・伝説

- ・赤坂の青入道
- ・南無阿弥陀仏
- その昔、外に出れない程、虫が沢山出た。家の中で南無阿弥陀仏と念仏を唱えると、虫はいなくなった。

◆木沢の良いところ

- ・心の温かい人が多くて、まとまりがあるんだ。
- ・越後三山がきれいだ。ほんとに！
- ・月2回のお茶会が楽しみだねえ(和子さん)。
- ・山菜が取れること(ぜんまい・木の芽・わらび・ふきのとう・たらの芽)。
去年はキノコがいっぱいとれたよ。



杵渕一成(新潟工科大学)

今春、警察官に！前日の雪像作り(トトロ)の仕上げに活躍。



◆嫁に来た頃

- ・昭和39年4月25日
- ・雪が多くてびっくり！
- ・畑まで歩いて30分
帰り道、荷が多くて大変。

◆牛の角突き

- 昭和40～45年になくなる。当時の娯楽で楽しかった。
- ※角牛・・・リヤカーをひかせた



銀 蔵

銀蔵が語る木沢の歴史

訪問メンバー（高橋要・間野光晴）

◆銀蔵の系譜

初代・銀蔵→2代目・市蔵→3代目・銀太郎→4代目・長吉→5代目・幸一郎

◆木沢の学校の歴史

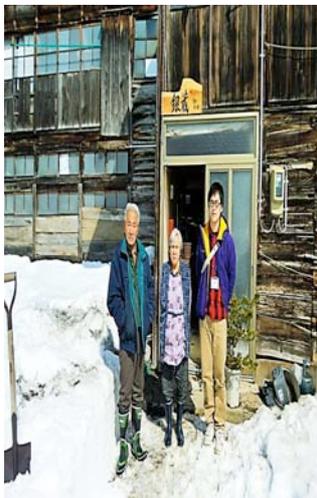
最初の校舎・・・ミセの近くにあつて、廊下がなかった。
高等科は中山にあり、冬はスキーで通った。

2番目の校舎・・・現在の場所に移る。高等科が併設。

3番目の校舎・・・昭和57年現校舎に。平成16年3月31日閉

◆十二神社について

- ・昔はミセの上にあつた(十二様)。
- ・神主は星野ともぞう・その後・広井明朗(隠居)の父親へ。
- ・昔は広場に土俵があり、東山相撲大会が行われた。
土俵は70年くらい前につくられたらしい。
- ・盂蘭盆(うらぼん)には神社で盆踊りをした。



星野幸一郎さん イツさん
(昭和7年生・78歳)

◆銀蔵の宝



⑤真書太閤記(全三六巻)明治〇年刊



◆木沢の言い伝え

池ノ立には池があり、そこに龍が棲んでいた。けれど、山崩れが起きて池が埋まってしまい、龍はやむなく牛に化けて小松倉(山古志)の池に移り棲んだという。

◆生活について(昔)

- ・もち米は「めぐろもち」「大正もち」という品種だった。
めぐろもち＝江戸時代末期の片貝に「もちは目ぐろ」との記録が残っていて200年以上前からあったと考えられる。
大正もち＝昭和30年に市場から姿を消した幻の品種。
コシが強く、柔らかさが長続きし他のもち米では作れない美味しさがある。コガネモチに比べて20～30センチ背が高く倒れやすいため手間がかかった。(IN検索より)
- ・牛や山羊を飼っていて、糞は堆肥に、山羊の乳は自分で飲んで、牛は博労に売った。
- ・井戸は2本あって水源は池ノ立と上屋敷だったが、地震でやられてしまった。
- ・冬はへっどがら(もつの油をぬいたもの)をよく食った。
- ・養蚕が盛んだったな。年3回出荷して、現金収入になるから、生計も楽になった。

◆村の歴史

- ・昔は村全体が今より下がった位置にあり「中村」が中心だったが、地すべりにより少しづつ上がって来た。
- ・お寺は2度火事にあつた。



高橋要(上越教育大学)
・大学院生。教職志望。
・今春FS名誉村民に!
・去年は木沢に何度も足を運んでくれた。ナイスガイ!

万平

万平で学んだこと

訪問メンバー(鷲尾雄紀・星野正良)

◆屋号の由来

2代目「万平」の名が屋号になったこと。(なんで?初代は?)
善辰さんは9代目だという。
分家が4軒あり、昔は旦那様だった。

◆わら細工

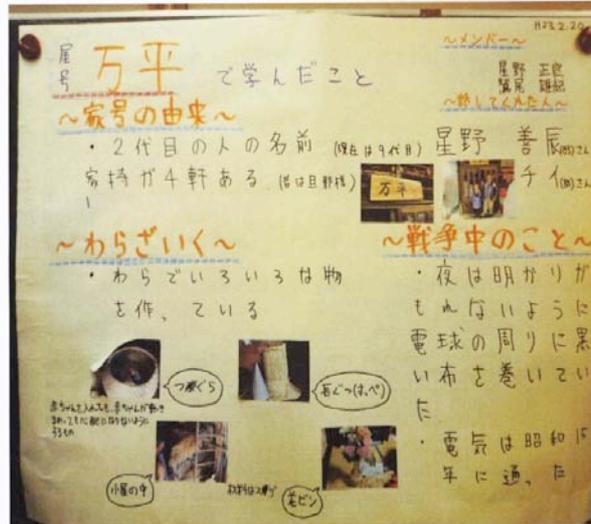
昔は冬の間、どこの家も藁(わら)で生活のための道具や用具をつくる藁仕事をしていた。

・すっぺ(長靴)

新しいうちは温かいが、濡れたり古くなったりすると冷たいので、中にしび(わら)を入れた。

・つぐら

赤ちゃんを入れて置くもの。赤ちゃんが外に出られないように作ってあるが、安全性にも配慮したつくりになっている。



◆戦時中のこと

戦争中も普段とそんなに大きく変わった生活ではなかったな。けれど、防空壕なんてないから、夜は明かりが漏れないように、電球の周りに黒い布を巻いて静かにしていたんだ。

電気は昭和15年頃に入ったが、それまではランプだった。

とにかく戦争が終わった時は、本当によかったと思った。

星野善辰さん(83歳) ティさん(80歳)



若い人がいなくて寂しい、と語る二人。

参考資料(我が家のホームページ「第二次世...より」)

第二次世界大戦による犠牲者数			
	兵員	(行方不明)	一般人
日本	230万		80万
アメリカ	407,828		
イギリス	353,652	(90,844)	60,595
フランス	166,195		174,620
ドイツ	210万	(290万)	50万
中国	1千万人を超えともいわれる		
ソ連	2千万人ともいわれる		

※資料によって数字は異なります



鷲尾雄紀(新潟工科大学)
中学、高校と野球一筋の硬派!



※手違いで写真を入手できませんでした。

長兵衛

自然と共に暮らす人達

訪問メンバー(宮沢駿・脇田妙子・土屋哲)

◆子供の頃の遊び(冬)

- ・けつずいな
わら束を尻の下に敷いて、雪が凍みた時などに滑って遊ぶ。
- ・雪ころがし
雪が凍みた日、雪面を円状に踏みしめ、円盤状の雪の塊を取りだす。それを坂の上から下に向けて転がす遊び。

◆屋号

先祖「長兵衛」から。
長兵衛は過去帳によると明治2年に82歳で亡くなっているから1790年頃に生まれたことになる。

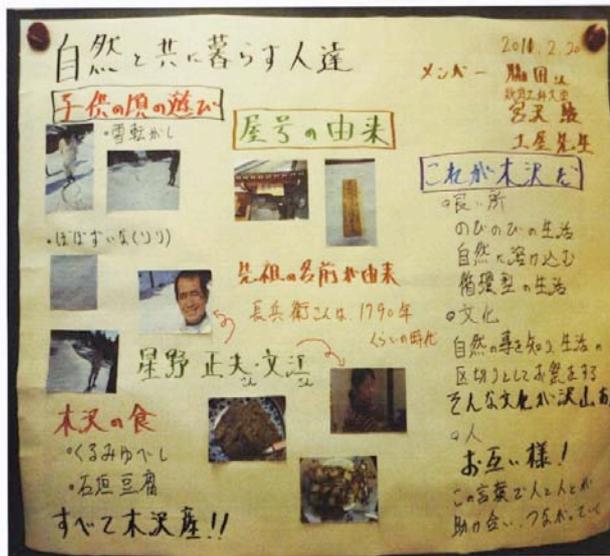
◆魚を食べてはいけない日
先祖が死んだ日は魚を食ってはいけない。だから小正月には皆、鮭を出す。うちは先祖が1月15日に死んでいるからダメだった。



星野正夫さん(65歳)
文江さん(58歳)



宮沢 駿(新潟工科大学)
第一印象は good!
文江さんの作った「くるみゆべし」と「石垣豆腐」をご馳走になり、木沢の味を堪能。



◆十二神社

昔は今よりも下にあったが、地すべりで下に住んでいた人達が上に移ってきたため、神社も今の場所に移動させた。神社は人が住むところより上にないといけないから。

◆いすす

石の碾き臼(ひきうす)のこと。石臼という餅などをつく搗き臼(つきうす)もあり、区別するために「いすす」と呼んだのだろう。(あるいは「いしうす」が訛って「いすす」になったのか)

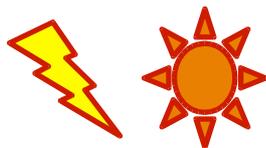
昔はどこの家にもあり、くず米をひいて団子を作ったり、蕎麦や「きなこ」や「こうせん=煎った米をひいたもの」などを作った。

◆これが木沢だ

自然を知り、自然から学び、それを神として祀り、生活の区切り(節目)として、お祭りをする。つまり、自然に溶け込んだ生活・文化が木沢にはある。

◆お互い様

ひとから何かを頼まれた時、お金を出されてのことだったら、断ってもいいが、タダの場合は断ってはいけない。それは助けて欲しいということだから。そんな助け合いの精神が「お互い様」という言葉でつながっているんだ。



土屋先生(長岡技術科学大学)

「木沢学は学生にとって良い勉強になり、また木沢の人達にとっても刺激となって、お互いに得るものがあった。これを続けて行くことが大事。」

万七

萬七さんちを訪れて

訪問メンバー(岩本拓也・星野忠明)

◆屋号

先祖の名前が萬七だった。
計次郎さんで12代目。



◆家紋

沢瀉紋(おもだか)
水草の名前であり、別名「將軍草」「勝ち草」。
葉の形が矢じりや盾に似ているのでそう
呼ばれている。
(攻めても守ってもよい)

◆集落の歴史

もっと下の牛ヶ首集落の近くの沢まで村が
あった。しかし、地すべりで上へ上へと引越
して行き、今は沢の近くに家はない。



今年は15回雪おろしをした

◆十二神社

・十二講
2月12日に神社の祭りで十二講という行事
があり、男は大人も子供も皆、弓をつくって
弓打ちを行った。打ち終わるまで女は家から
出ることができなかった。
昔は封建制度が強かったんだのお。

◆牛ヶ首地震

110年前の地震で80人くらいが亡くなった
らしい。

◆食

・かきもち、あんぼ、サトイモのぼたもち
・梨を茹でて食べた(落ちた梨などマズイ梨)。
・どぶろくを作っていた。
・戦後間もない頃は先生にサトイモやサツマイ
モの苗をもらった。

◆自給自足

米と野菜はもちろんだが、養蚕(カイコ)や錦鯉の養殖
も行っていた。それは現金収入になっていた。

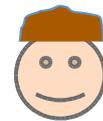


岩本拓也(関西大学)

失われていくものを守りたいと熱く語る。作曲もやる！♪♪

◆智恵子さん

智恵子さんは刈羽から木沢に嫁に
きた。木沢は四季によって山が変化
するし、過ごしやすいと言う。また、こ
どもが高校生になると、下に下りて
下宿するので悪ガキになったとも、、、。



星野計次郎さん(78歳)
智恵子さん(73歳)



◆心に響いた言葉(岩本拓也)

戦争中の経験や15歳の時の人脈が
今に役だっている。いっぱい経験しな
さい。

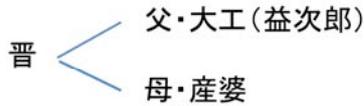


益次郎

前向き夫婦

訪問メンバー(宮沙織・星野靖)

◆屋号の由来



晋さんのお父さんの名が屋号となったが、村ではその職業から「さんば」さん、とか「さんばだいく」と呼ばれている。



工の神様
誕生日のお花と
常に大切にされ
ました。(宮)

◆嫁に来た頃

昭和37年、新潟から木沢へ！
当時は乳牛2頭と仔牛1頭を飼っていて、マサコさんは牛乳を配達していた。
一方、晋さんは精乳のため町に牛乳を運んでいたが、冬はかんじきをはいて40キロもある牛乳缶を背負ったという(ご苦労様)



◆人との出会い

出かけるのが大好き♪、でもいろんな事件も、、、
①長野・善光寺からの帰り道、道を間違え反対方向の静岡まで行ってしまった、、、あ〜あ。
②群馬からの帰り道、スーパーの間屋さんが ICまで案内してくれたのだが、、、。
近道があまりにも険しくて、もしかしたら、ここで殺されるのでは、、と思ったとか、、、。
☆いろいろあったけど、毎回マサコさんの作ったおにぎりをお礼にあげる温かい二人なのです。

◆こだわりの米作り

一つひとつの田んぼに名前をつけて、パソコンで管理。
いつ、どんな肥料や農薬をまいたかなど、克明に記録しているとか
また、販売はインターネットや口コミなどで行っている。

◆子供のころ

- ・田植え休み、稲刈り休み、かいこ休みがあった。
 - ・昼休みの体育館は小学1年から中学3年まで一緒に遊ぶのでからだがつぶれる程狭かった。
- それほど昔は子供がいっぱいいいたんだ。(晋さん)

◆木沢の良いところ

- ・のんびりしてるとこ。
- ・自給自足ができる。
- ・大根が喜ばれる。標高が高いから、おいしい大根ができる。



宮沙織(新潟工科大学)

♪気配りと優しさにあふれる女性。支援員に興味？



◆晋さん(73歳)

テレビを村で最初に入れた。現在パソコンを4台持っている。
とにかく出かけるのが大好き！

◆マサコさん(74歳)

新潟日報のコラム「日報抄」を毎日書き写している(平成20年3月1日から)日記も続けています。(すごい!!)

弥吉

渡辺さんの暮らし

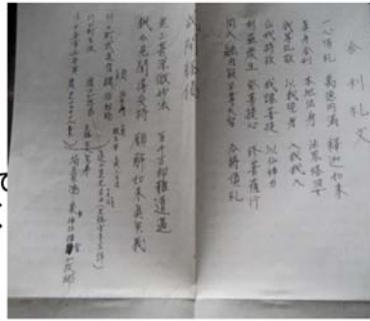
訪問メンバー(木口直・星野隆則)

◆屋号の由来

木沢に最初に住んだ先祖の渡辺弥吉の名を取った。亡父ヒロカズ氏の遺した辞典に挟まれていたメモから判明した。先祖「弥吉」は埼玉から移り住んできたとのこと。

◆夫・ヒロカズ氏

たくさんの本を所有する読書家だった。土方の仕事をやめてからは、本と酒と風呂にと、のんびり過ごしていたという。亡くなった日も、酒を飲んで風呂に入って、そのまま湯船の中で眠るように息を引き取ったという。まるで生きているかのように、あまりにも顔色が良く幸せそうな表情だったらしい。遺品の本はダンボール37箱分にもものぼり、全て燃やして冥土に送ったと、サチさんは話す。



◆サチさん(昭和8年生・77歳)

弥吉に嫁いできたのは19歳の春。3年勤めた富山の紡績工場を希望退職に応じて辞め、木沢に戻って来た時のこと。結婚の話が出た時、サチさんはひとりで相手の家に出向き水をもらって飲んだという。甘味のあるうまい水で「この水なら一生飲んでもいい」と考え、結婚を決意したという。

◆小学校(終戦前後)

勉強は殆どせず、農作業が中心だった。
・道端にズラっと大豆(枝豆)を掘割の辺りまで植えた。
・畑を借りてサツマイモやジャガイモを作ったり、その肥料用に草刈をして、堆肥をつくった。

◆サチさんの印象(木口直)

頬の色がよく、腕が実際よりも太く見えた。肌もつややかで、明るく優しげだった。(発表でもサチさんの好印象をなぜか強調していた。)



◆富山の薬売り

半年おきに(春と秋)やってきて、使った分を補充したり、新しい薬と入れ替えたりしていった。←置き薬

(子供に紙風船やゴム風船をあげたりと人情味あふれる商いが懐かしい。)



円柳寺

木口 直(関西大学)

発表では笑いを誘うなど存在感を示す。その一方、若くして日本酒の魅力にとりつかれた酒豪。

万平家持

Hot my home

訪問メンバー(倉重翔太・小林正利)

◆屋号の由来

大正7年万平から分家する。当時、万平分家は4軒あったため、区別する意味で新宅名を。正式には万平家持だが、通称「仁平治」と先代の名で呼ばれている。光治さんは2代目であるが、分家に出てもうすぐ1世紀(現在97年目)になろうとしている。



◆自動車(くるま)

光治さんは木沢の誰よりも早く東京(小金井)に出かけて、自動車(くるま)の免許を取得した。それがきっかけで木沢に自動車(くるま)が普及し始めた。そういった意味で先見の明があったのではと光治さんは自負する。



星野光治さん(80歳) 和さん(80歳)

Ⓛ昔ながらの木沢の手料理



◆戦時中

政府の供米制度により、米が少なくサツマイモなどを入れて腹の足しにした。

◆生活史

- ・昭和16年・木沢に初めて電灯が点る。
←文明開化？
- ・昭和39年東京オリンピックの開催を契機にテレビの普及が始まる。
それまでは学校やテレビのある家にみんなで集まって相撲などを見ていた。

◆最後に言われた言葉(倉重)

何年後でも何十年後でもいいから今度は“個人的にまた来い！”



倉重翔太(新潟工科大学)

本人曰く、真面目そうに見えても、実は高校を????したんだ、、とか。

光治さん宅では酒をごちそうになり、酒気帯びの発表となったが、減点なしの満点？

子ノ兵衛

栄子さん家

訪問メンバー(小橋浩章・大川真悟・星野国樹)

◆屋号

子ノ兵衛は8代くらい前の先祖の名。

◆子供の頃

・遊びは学校の体育館で鬼ごっこなど、、、

・手伝い

書き置きした紙のそばにおやつを置いて手伝いをさせた

おやつ=さつまいも、かぼちゃ、くわいちご、、、など

子供は糖分の多い甘いものに飢えていた。

機械がないので子供の労働力は重要だった。

そうやって少しずつ仕事を覚えさせ、中学を卒業するころには一人前になっていった。

女の子(長女)は小さい子の面倒を見ていた。

◆戦時中(冬)

・教育の一環として「縄ない」を学校で習った。

・当時、わらぐつ(すっぺ)が主流で、ゴム長ぐつは1クラスに2~3足しか配給されなかった。それを「買う権利」はあみだくじで決めたそうだ。



星野栄子さん(77歳)と愛犬
その奥に長男・達也さん(55歳)

◆食

・味噌はどこの家も自家製だった。2~3軒で機械を1台共同購入し味噌をつかった。その味噌は2年間熟成させ、3年目にしてようやく食べられるようになるとのこと。

・銀杏はわらに入れ、それを灰の中でいぶして食べた。

・子供たちは桑イチゴをふきの葉に包み、それを絞ってジュースにして飲んだ。が、服を汚すので親に怒られた。(その中にヘクサムシがいることが多く、気を付けないと大変な目にあうことも、、、)

生活の知恵

・ミウガの皮を上に乗せて置くと温度が上がらないので夏の食品保存に効果がある。

・梅干、笹や竹の葉は殺菌効果があり、おにぎりなどに入れてたり、包んだりした。

また、笹の葉はヘルメットの内側に入れると熱を遮断してくれるので涼しいらしい。



小橋浩章(新潟工科大学)

優しそうな顔は言葉にも表れている。雪像(トトロ)づくりでは的確な指示をだしていた。



大川真悟(新潟工科大学)

本人はあがり症というが、真面目に勝るものはなし。